

### 1 四日市市における配食サービス

四日市市内の特別養護老人ホームは宅配給食を四日市市の委託をうけて平成 2 年より開始。市の地域支援事業の一環としておこなわれたこの事業はデイサービス事業の中に位置づけられた。

その後、四日市市のデイサービスセンターには在宅介護支援センターが併設され、四日市市内 24 箇所の在宅介護支援センターとデイサービスセンターがセットとなった「在宅介護サービスセンター」と名づけられ宅配給食は『在宅介護サービスセンター』の事業として推進された。

当初は宅配給食の対象者は措置的な要素が強く「単身者」「低所得者」「高齢者」といった限られた人々とされており、在宅介護支援センターに相談のあった人に対し、市の社会福祉事務所へ許可を頂き、給食を行っていた。

宅配給食の目的は「食事」が十分に自立状態にない人への救済としておこなわれた。

給食サービスの内容は、各委託された事業所の厨房で作られた弁当を一日昼、夕の二回の宅配であった。ただし、厨房は老人福祉施設の自営の厨房のところと業者委託の厨房もあったが栄養計算は栄養士がかかわっていた。

### 2 四日市市の考える宅配給食の目的

四日市市は平成 18 年度から宅配給食を『見守り宅配給食』としての位置づけをしている。

見守り宅配とは弁当配達員が宅配した弁当が食されているか、家内に持ち込んでいるか、時には声がけをして健康状態以外にも「友愛訪問」としての話し相手などにもなるといった見守り安心作業を給食と同時におこなうことを言う。

このことで「孤立化の防止」や身体的な急変の発見や転倒して動けなくなったなどの少しでも早い発見に役立っている。年間数例の異常事態に陥った人の発見事例もあり見守りと食事の確保サービスの効果は十分に上がっている。

利用者の状況については次のような事例がある。

### 3 利用者の状況について

#### (1) ケース 1

男性 認知症自立度 IIa 障害自立度 J2 88 歳 要支援 2 (住宅改修のみ)

日中一人で生活。主に畑仕事に自転車を出かけている。難聴のため電話は使用できない。畑で負傷することがたびたびある。また、転倒したような形跡があっても、本人は「こけてない」という。出かけて帰れなくなったことは今までにない。なべをよく焦がす、水の出しっぱなしなどがよくある。出かける場所は決まっているが、往復路や畑での負傷がある。家族は日中仕事があるので、不安に思っている。物忘れが目だっていることも心配であるが、本人は電話に出ないので、何かあったときにも連絡がとれない。

⇒訪問給食で昼に 1 回安否確認するようになる。時々、配達時に不在であるが、その際はスタッフが畑やいつも通る道を確認し、声をかけている。一度、畑で頭から流血している。本人に聞くと、「自分で木を切っていたら、切った木が自分の方へ倒れてきた」と言う。頭を打っている可能性もあると判断し、救急車で病院へ行き処置後帰宅。その

後しばらくは傷口の消毒の為毎日受診したとのこと。

## (2) ケース2

女性 認知症自立度Ⅱa 障害自立度J2 82歳 介護保険未申請

H〇年3月に同居の息子が亡くなり一人暮らしとなる。家の前の畑仕事を一生懸命している。嫁に行った娘らは、あまりに本人が畑仕事ばかりして、時間も忘れて畑にいるほどなので、熱中症や転倒なども心配し、適当にするように言っている。気晴らしにデイサービスなども勧めてみたが、本人は乗り気ではない。息子が亡くなってから、記憶力の低下やこだわりが強くなったように娘らは感じていた。火の取り扱いも不安があり、食事を娘らが作って運んでいたが毎日も行けないので、H〇年6月より訪問給食を利用することになる。

⇒訪問給食を楽しみにするようになり、配達時間には畑から戻ってくれるようになった。H〇年11月、本人不在のため、配食スタッフが畑の方まで見に行くと、納屋の前で本人が倒れていた。本人は「こけた」といい、起き上がれない様子。事務所に電話をして、事務所より家族に連絡、家族に救急車を呼んでもらう。救急車到着までスタッフ待機、家族も駆けつけてくれたので、家族が救急車に同乗。急性期病院 ICU を経て回復期病院へ。現在在宅復帰を目指して、老人保健施設にてリハビリ中。

## (3) ケース3

女性 認知症自立度Ⅱb 障害自立度A2 90歳 要介護3（福祉用具貸与のみ）

ひとり暮らし。週に一度妹が部屋の掃除や洗濯に訪問する。妹も80歳代であり、週に1回の訪問が精一杯の支援である。本人は元々股関節に障害があり、歩行困難で自宅内を這って生活している。更に認知症の進行もあり、介護保険サービス利用についてはたびたび説明し利用を進めるが、本人・妹ともに自分で生活できるうちは利用せずにかんばりたいということで、手すりの貸与のみ利用。通いや訪問のサービスはまだ利用するつもりがない。

⇒訪問給食スタッフが、給食に手をつけていないことがあることを確認。おそらく、玄関に配達して声をかけて返答があっても、本人がお弁当のことを忘れてしまうことがあるようである。玄関ではなく、居間のテレビの前の机に配達することとなる。

⇒訪問給食スタッフが、配食したとき、焦げた臭いを感じて台所を見させてもらうと、なべがこげた状態で火にかかっており小火寸前で鎮火。妹とケアマネージャーに連絡をとる。

## 4 宅配給食利用者の利用理由

宅配給食利用者の主な利用理由は次のとおりである。

- (1) 調理困難な利用者の事例
- (2) 調理をしたことがない
- (3) 炊飯はできるがおかずをつくれない男性
- (4) 認知症で「食」への関心が低下、意欲がない
- (5) 退院後、医者に指示された食事を作れない
- (6) 台所に長時間立てない
- (7) 買い物にいけない
- (8) 何らかの疾病があるため食事の栄養バランスを考慮したい
- (9) 話し相手がほしい

- (10) 毎日来てもらふことで安心する
- (11) ベッド脇まで運んでくれる
- (12) 食よりも「見守り」重視

## 5 青山里会からの配食の特徴

- (1) HACCPにもとづいた衛生管理を実施
- (2) 検便検査（調理員、配達スタッフ）実施
- (3) 室温配送チェックを行っている
- (4) 高齢者のための食事の献立
- (5) 栄養管理部における栄養管理がされている
- (6) 多職種連携
- (7) MEELS ON WHEELS日本協会（全国老人給食協力会）の会員

訪問給食の内容



配食風景

- 声かけ、手渡しが基本のサービス



## 6 今後の課題

- (1) 毎日宅配(正月・日曜日も含めた 365 日の宅配)
- (2) 朝食の宅配
- (3) 医療食(疾病のある人への特別食)の宅配をおこなうために地域の医療機関等との連携
- (4) 見守りは安否確認のみの活動であるので、健康管理(栄養管理)を見守り機能に加える
- (5) 宅配給食を受けたくない(費用の問題等が理由の人が比較的多数)人の中には独居高齢者や高齢世帯が多いため『食の孤立化』が今後増加する恐れが強い
- (6) 健康維持のため日常生活の中での「運動と食」のバランスをとる必要がある
- (7) 住民参加型の宅配給食(ミールズオンホイールズ)の啓発活動の推進